

茨城県における梅毒患者の実態調査に関する研究について

○梅澤美穂¹⁾, 中本有美¹⁾, 栗田順子²⁾, 駒田直美²⁾, 永田紀子¹⁾
茨城県衛生研究所¹⁾, 茨城県立医療大学²⁾

【目的】本邦の梅毒患者は近年急激に増加しているが、本県においても例外ではなく、平成27年以降急増している。しかし、患者発生届から得られる情報は限られていることから、詳細な感染経路および近年の梅毒患者急増の背景等は明らかになっていない。そこで、県内で届出があった梅毒患者についてアンケート調査を実施し、感染経路等を詳細に把握することにより、梅毒を含めた性感染症の検査受診の促進及び効果的な予防啓発に寄与することを目的とする。

【方法】感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律により届出があった梅毒患者について、届出を行った医師へ「患者の基本情報」、「過去1年間の性交渉状況」、「性感染症の罹患歴」および「医療機関受診の理由」等をアンケート調査した。回収後、アンケートおよび発生届の内容を用いて解析を行った。

【結果】平成30年10月から令和元年5月21日までに61例回収した。性別は、男性40例、女性21例と男性が多かった。年齢の中央値は、男性44.5歳、女性25.0歳であった。また、女性のうち3例(14.3%)は診断時に妊娠中であった。患者の婚姻状況は、男女ともに未婚が多く、職業は、男女ともに会社員が最も多かった。また、女性のうち、風俗を職業としている症例が4例(19.0%)あった。過去1年間の性交渉状況については、男性異性間性的接触患者では「風俗店」、男性同性間性的接触患者では「インターネット・SNS等で知り合ったその場限りの相手」、女性患者では「特定のパートナー(配偶者・恋人等)」が最も多かった。過去の性感染症罹患歴については、男性9例(22.5%)、女性5例(23.9%)で罹患歴があり、そのうち男性同性間性的接触患者3例で2つ以上の罹患歴があった。医療機関受診の理由は、無症状病原体保有者については、人間ドック、妊婦健診、術前検査等であった。

【結論】本調査により、梅毒の感染経路として、男女で異なる傾向がみられた。男性の多くは風俗により、女性の多くはパートナーから感染していることから、風俗関係者等への普及啓発の強化が必要と考えられる。今後も引き続き調査を実施し、梅毒を含めた性感染症に関する知識の普及および予防啓発に寄与したい。